

テキストマイニングによる十五代酒井田柿右衛門の作品解説に関する分析

An Analysis on the Description of the Works of Sakaida Kakiemon the 15th by Text Mining.

濱川 和洋

九州産業大学

Hamakawa Kazuhiro

Kyushu Sangyo University

Key words: 15 generation Kakiemon Sakaida, Nigoshide, Kakiemon style, acorn pattern, Text Mining, KH coder

要旨

本研究では、十五代酒井田柿右衛門氏の団栗文様に関する作品解説についてテキストマイニングを行い、抽出された語彙の特徴とその時々濁手作品に見られる特徴とを照らし合わせることで、襲名後約6年間での変化について分析を行った。その結果、柿右衛門様式を象徴する赤に対する意識の変化を捉えることができ、団栗文にみる十五代の意識の変化は他のモチーフにも同様の傾向が認められることが明らかとなった。今後は他のモチーフについても分析を行い、作品全体としての変化や傾向を捉えていきたい。

Summary

In this study, we performed a text mining analysis of the 15th generation Sakaida Kakiemon's own talks about his acorn motif, and analyzed the characteristics of the extracted vocabulary and the characteristics found in his nigoshide work at that time. By comparing them, we analyzed changes in the artist's consciousness over the past six years. As a result, the change in consciousness in relation to the usage of red overglaze enamel, which symbolizes the Kakiemon style, was analyzed and it became clear that the change in consciousness observed in regards to the acorn pattern has the same tendency of increased frequency in other motifs. In the future, I would like to analyze other

motifs in the same way and capture changes in all of the work in its entirety.

1. はじめに

本研究では、十五代酒井田柿右衛門氏（以降十五代）が作家としての考え方や作風を確立していく過程を記録に残すことを目的に、個展等の長期的な追跡調査を行っている。本稿は現在まで延べ31回の調査を行い、ギャラリートークの音声、筆記による記録及び展示図録の収集を行った。2017年には、ギャラリートークにおける発言内容をカテゴリに分類し、収集した情報を整理するとともに、団栗文の描き方と色の変化について報告を行った（濱川、2018）。ギャラリートークのカテゴリには、「歴史」、「技法」及び「原材料」など殆ど情報が更新されないものと、「作品解説」及び「今後の展望」など情報が更新されていくものに大別できる。後者についてはテキストマイニングを活用した定量的分析によって、より詳細な変化や変化の兆候を把握することができる可能性が考えられる。そこで本稿では、酒井田柿右衛門氏が十五代襲名後最初に描いたモチーフとされる「団栗文」の作品に着目し、作品解説の分析結果とその時々濁手作品に見られる特徴を照らし合わせることで、十五代の作品やモチーフに対する意識の変化を明らかにしたい。そして、今後本研究で取り上げなかったモチーフやカテゴリを分析していくための足がかりとしたい。

表1 これまでに行った調査の一覧

調査日時	展示名	場所	ギャラリートーク
2015.3.8	【福岡】国際シンポジウム 世界の「アリタ」 - 有田焼の伝統と未来に続く創造性 -	九州国立博物館ミュージアムホール	講演及びパネルディスカッション 13時～16時20分
2015.3.8	【福岡】トピック展示 柿右衛門 受け継がれる技と美	九州国立博物館文化交流展示室	無し
2016.7.5	【広島】【有田焼創業400年記念】 十三代今右衛門・十四代柿右衛門展	広島三越 8階催物会場	トークイベント7.5_14時～15時
2016.9.22	【佐賀】特別企画展 「人間国宝と三右衛門」	九州陶磁文化館	9.22_14時～15時
2016.10.5	【福岡】【有田焼創業400年記念】 十三代今右衛門・十四代柿右衛門展	福岡三越 9階「三越ギャラリー」	トークイベント10.5_11時～12時
2017.3.25	【広島】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	福屋八丁堀本店 7階 美術画廊	3.25_14時～14時半
2017.6.11	第52回西部伝統工芸展	福岡三越 9階「三越ギャラリー」	6.11_12時～12時40分
2017.9.3	【宮城】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	藤崎 本館7階 催事場	9.30_14時～14時半
2017.10.28	【静岡】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店 本館8階 催会場	10.28_14時～14時40分
2017.10.29	【静岡】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店 本館8階 催会場	10.29_14時～14時40分
2018.3.24	【大阪】 十五代 酒井田柿右衛門展	近鉄百貨店 タワー館11階美術画廊	3.24_14時～14時半
2018.4.4	【福岡】 十五代 酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店 本館6階 アートギャラリー	4.4_14時～14時半
2018.4.8	【福岡】 十五代 酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店 本館6階 アートギャラリー	4.8_14時～14時半
2018.5.12	【東京】高島屋美術部創設110年記念 <襲名記念> 十五代 酒井田 柿右衛門展	日本橋タカシマヤ 6階美術画廊	5.12_14時～15時
2018.5.21～5.29	【ドイツ・オランダ】テレビ取材（海を渡った柿右衛門）	ドレスデン・アムステルダム の城、美術館ほか	インタビュー等を録音
2018.9.23	【兵庫】 十五代 酒井田柿右衛門展	そごう神戸店 本館9階	9.23_14時～15時
2018.10.6	【茨城】創業110周年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展	京成百貨店7階 催事場	10.6_14時～15時
2018.11.17	【京都】高島屋京都店美術部創設110年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展	高島屋京都店 6階美術画廊	11.17_15時～16時
2019.2.10	【山梨】 十五代 酒井田 柿右衛門展	岡島百貨店 5階岡島ギャラリー	無し
2019.2.11	【福岡】第65回日本伝統工芸展	福岡三越 9階「三越ギャラリー」	無し
2019.3.16	【岡山】 十五代酒井田柿右衛門展	高島屋岡山店 8階特設会	3.16_13時～13時40分
2019.5.25	【千葉】 十五代酒井田柿右衛門展	そごう千葉店 7階 美術画廊	無し
2019.6.8	【福岡】第54回西武伝統工芸展	9階三越ギャラリー	無し
2019.9.21	【福岡】第41回西日本陶磁器フェスタ	西日本総合展示場	9.21_11:00～14:00～
2019.9.28	【岡山】 十五代酒井田柿右衛門展	天満屋岡山店 5階 美術画廊	無し
9/30～10/4	【ドイツ】ベルリン	在ドイツ日本国大使館	10.1_17時～18時
2019.10.27	【大分】 十五代酒井田柿右衛門展	大分トキハ本店 7階画廊	無し
2019.11.9	【熊谷】 十五代酒井田柿右衛門展	八木橋 8階 カトリアホール	無し
2019.12.7	【長崎】 十五代酒井田柿右衛門展	浜屋百貨店 8階 美術ギャラリー	12.7_14時～14時半
2020.1.26-27	【福井】 十五代酒井田柿右衛門展	西武福井店本館 6階 催事場	無し
2019.2.11	【福岡】第66回日本伝統工芸展	福岡三越 9階「三越ギャラリー」	無し

2. ギャラリートークと団栗文について

ギャラリートークは、百貨店等からの依頼により開催されるため不定期に行われている(表1)。ギャラリートークのスタイルは、司会による十五代のプロフィール紹介の後、十五代が一人で話を進めていくものと、司会者との対談形式で行うものがあり、内容は「襲名前後の話」、「酒井田家の歴史」、「原材料について」、「作品解説」及び「質疑応答」という構成で30分から60分程度で行われることが多い(図1)。襲名5年目以降は、襲名前後に関する話題は減少傾向にあり、作品解説や制作に関連したエピソードに時間が割かれる割合が多くなりつつある。その中で団栗文は、十五代が襲名後最初に描いたモチーフということもありギャラリートーク内で解説される頻度が高く、追跡調査を始めてから現在に至るまで定期的なデータを蓄積している。そのため本稿では、時間的な変化を捉えるため団栗文の作品を分析対象とした。表2はこれまでに収録した団栗文



図1 ギャラリートークの様子 (2019.12.7 浜屋百貨店)

の作品解説が行われた個展である。なお、十五代の継続的な追跡調査は、襲名3年目にあたる2016年から始めているが、諸事情によって開始当初において調査できていない個展も多く、2016年以前はギャラリートークを記録できなかった。そのため、未調査の個展や企画展については、近年になってから収集した図録等のデータを使用した。

表2 団栗文様の作品解説が行われた個展

調査日時	展示名	場所	ギャラリートーク
2016.7.5	【広島】【有田焼創業400年記念】十三代今右衛門・十四代柿右衛門展	広島三越 8階催物会場	トークイベント7.5_14時~15時
2016.10.5	【福岡】【有田焼創業400年記念】十三代今右衛門・十四代柿右衛門展	福岡三越 9階「三越ギャラリー」	トークイベント10.5_11時~12時
2017.3.25	【広島】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	福屋八丁堀本店 7階 美術画廊	3.25_14時~14時半
2017.9.3	【宮城】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	藤崎 本館7階 催事場	9.30_14時~14時半
2017.10.28	【静岡】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店 本館8階 催会場	10.28_14時~14時40分
2017.10.29	【静岡】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店 本館8階 催会場	10.29_14時~14時40分
2018.4.4	【福岡】十五代 酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店 本館6階 アートギャラリー	4.4_14時~14時半
2018.4.8	【福岡】十五代 酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店 本館6階 アートギャラリー	4.8_14時~14時半
2018.5.12	【東京】高島屋美術部創設110年記念 <襲名記念> 十五代 酒井田 柿右衛門展	日本橋タカシマヤ 6階美術画廊	5.12_14時~15時
2018.9.23	【兵庫】十五代 酒井田柿右衛門展	そごう神戸店 本館9階	9.23_14時~15時
2018.10.6	【茨城】創業110周年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展	京成百貨店7階 催事場	10.6_14時~15時
2019.12.7	【長崎】十五代酒井田柿右衛門展	浜屋百貨店 8階 美術ギャラリー	12.7_14時~14時半

3. テキストマイニング手法を用いたテキスト分析

3.1. テキストマイニングについて

テキストマイニングは、質的データであるテキストを量的に分析する手法であり、量的データはテーマによってクラスター分析などの多変量解析も可能な手法である。一般的にそれはアンケートの自由記述やSNSでのクチコミ等を分析する際に用いられている。テキストマイニングを活用する利点は、膨大な量のテキストデータを労力をかけず短時間で効率的に整理できること、それから膨大な量のテキストデータを対象とすることで相関分析等が可能となり、データの持つ意味を深掘りできることにある。本稿で扱う十五代のギャラリートークは、テキストに起こすと約60分の内容でおよそ1万5千字になるが、今回の研究は団栗文のみのテキストに限定するため、テキストマイニングを行うにはデータ量が十分とは言えない。しかしながら、十五代の追跡調査を開始してから約4年にわたる継続的な記録は、例えば「4年前と比べてどんなキーワードが増減しているか」または「4年の間にキーワードの出現数がどう推移しているのか」という時間的な比較分析が可能と考えられる。

3.2. テキストのクリーニング作業

テキストマイニングは本来書き言葉を分析するものであるため、十五代が実際に発言した話し言葉を書き言葉に変換する作業が必要になる。従って、素起こしたテキストの「あの一」や「まあ」など意

味を持たない繋ぎ言葉のケバ取りを行い、文脈から判断しながら同音異義語や専門用語を漢字に変換した。また、独特の言い回しや方言を同一の基準で修正するなど文章の整文を行い、テキストのクリーニング作業を行った。

なお、ケバ取りの際には、例えば「あの」という言葉が繋ぎ言葉の「あの一」なのか、何かを指し示す言葉としての「あの」なのかを文脈から判断しながら作業を行った。また整文の際には、例えば「何を描こうかなって最初思いました」という文章を本来なら「最初は何を描こうかなと思ひました」と修正すべきなのかもしれないが、分析者の解釈によってニュアンスやもとの意味が崩れてしまう可能性が考えられるため、本稿では「何を描こうかなと最初思ひました」という程度に留めて、なるべくオリジナルの文章が崩れないように修正した。

3.3. テキスト分析の方法

テキストマイニングにはKH coder¹⁾を使用して分析を行った。手順としては、①クリーニングしたテキストを形態素解析²⁾により語彙の出現頻度や出現傾向について解析を行い、②共起ネットワークによって語彙の関係を視覚化、十五代の心の動きや美意識に関して、③特徴的に現れる語彙や共起する語彙の関係性などを確認し、④その時々に見られる特徴を照らし合わせるといった流れで行った。

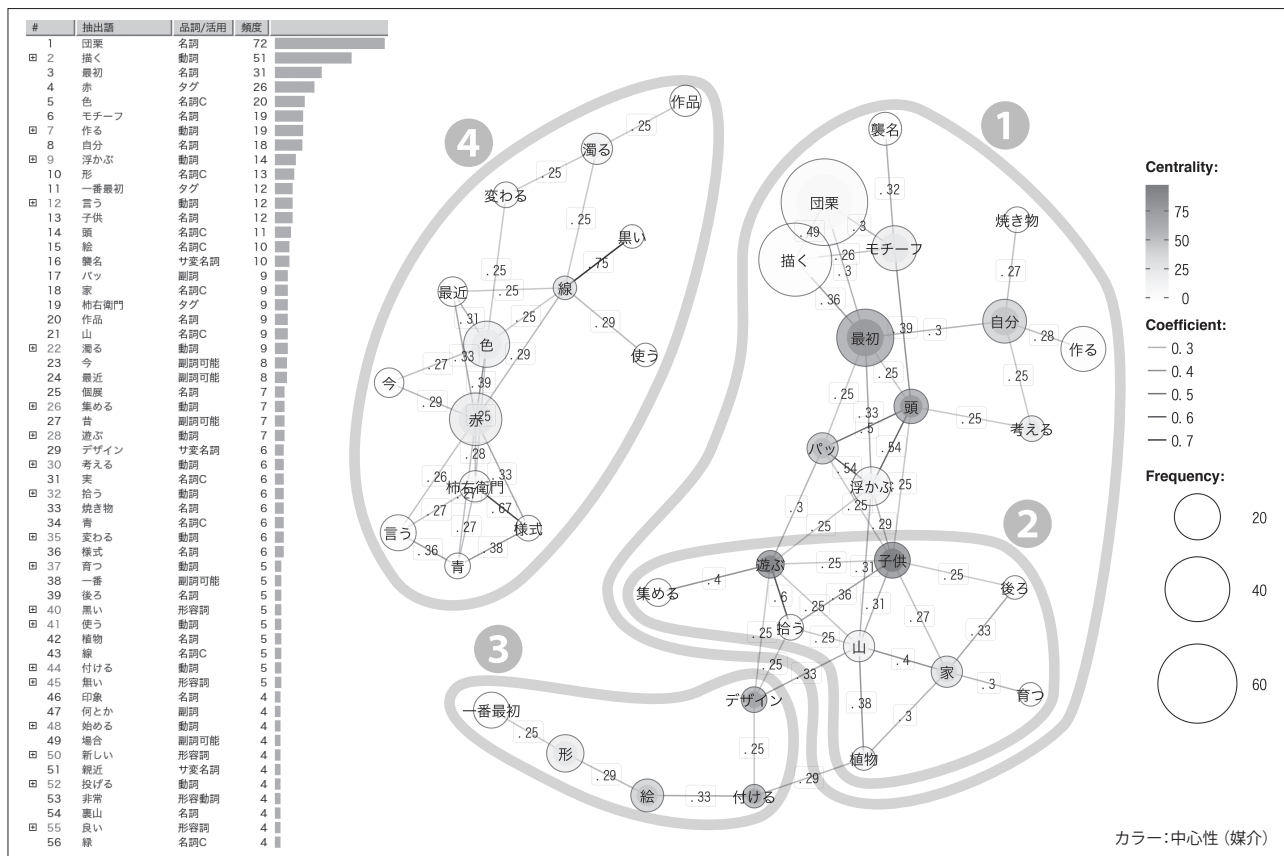


図2 全ての団栗文に関するギャラリートークの分析結果

4. 分析結果と語彙の分類による話題の抽出

まず団栗文に関する作品解説において、これまでのようなことが述べられてきたのか把握するために作品解説12回分のテキストをまとめて分析し、語彙を出現する話題のカテゴリごとに線で囲み分類した(図2)。なお、共起ネットワークの円の大きさは語彙の出現頻度の多さを表しており、円を繋ぐ線の太さは共起関係の強さを表している。さらにデータの中で中心性が高い語彙(重要な役割を果たしている可能性がある語彙)は、色が濃く表示されている。

語彙を分類すると「①団栗をモチーフにした理由」、「②子供の頃の記憶」、「③器形に関すること」、「④文様の色に関すること」の概ね4つに分けられ、「②子供の頃の記憶」は「①団栗をモチーフにした理由」の中で触れられることが多いことから、①に内包される形となった。以降、この4つの分類を各個展での分析結果に当てはめつつ、図録に掲載されている作品との関係をみていくことにする。因みに図録は個展毎に制作されており、出品作品の約半数

の30点ほどが掲載されている。

図3は2016年7月5日 広島三越「有田焼創業400年記念 十三代今右衛門×十四代柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。この展覧会は先代の作品がメインとなっており、十五代自身の作品を解説する時間が短かったため、文字数が非常に少なくなっている。共起ネットワークは『柿右衛門』の中心性が高くなっていることがわかるが、「柿右衛門様式磁器や歴代柿右衛門に団栗文が無く助かった」という「①団栗をモチーフにした理由」に関する内容が主となっている。

図4は2016年10月5日 福岡三越「有田焼創業400年記念 十三代今右衛門×十四代柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。図3の広島三越と同じ内容の巡廻展で先代の作品がメインとなっているが、今回は図5に示す濁手団栗文六角壺について解説が行われた。共起ネットワークは『作る』と『形』の中心性が高くなっているが“ハンブトンコートにある柿右衛門様式磁器を参考に新しい

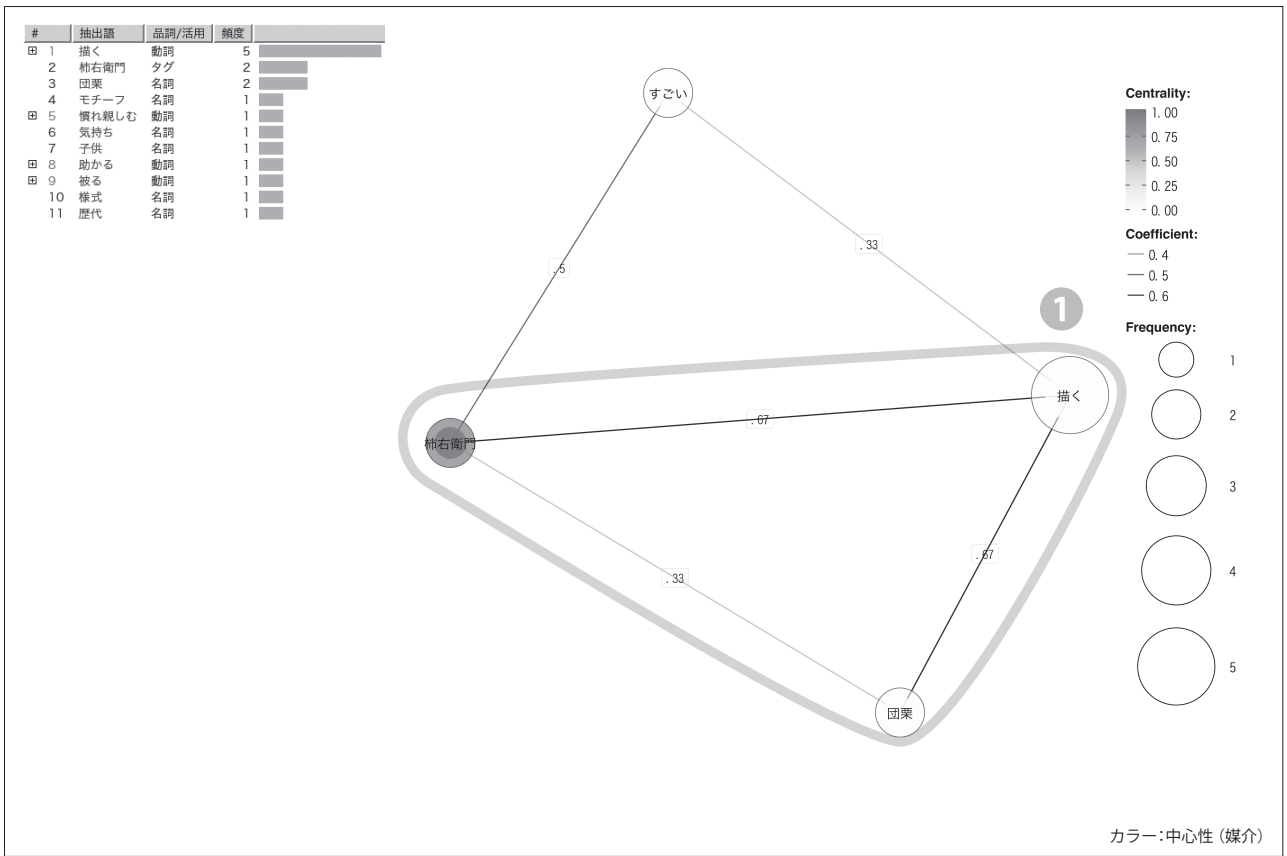


図3 2016.07.05 広島三越における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

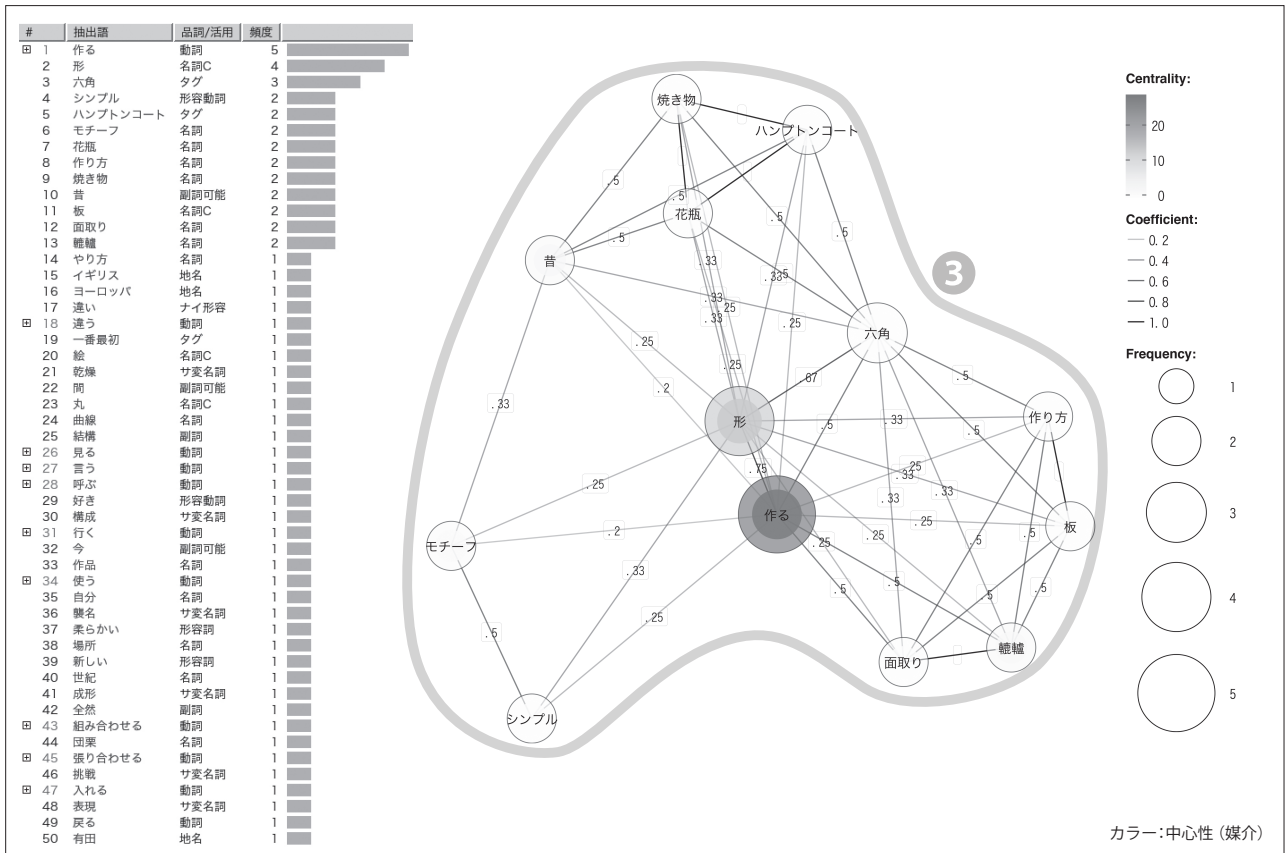


図4 2016.10.05 福岡三越における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

六角壺を作った”という「③器形に関すること」が主な内容になっており、六角壺の面取りされた柔らかなカーブなど、形への拘りについて述べられた。

図6は2017年3月25日 広島市の福屋八丁堀店「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。共起ネットワークは『団栗』、『作る』、『スケッチ』の中心性が高くなっており、「①団栗をモチーフにした理由」が主な内容になっているが、その中で“スケッチをしてモチーフの構造を理解してから想像で文様を描く”というモチーフを文様化するプロセスについて述べられた。また、『変わる』という語彙が新たに出現しているが、解説の中で「最初からすると大分描き方も変わって



図5 濁手団栗文六角壺³と部分拡大

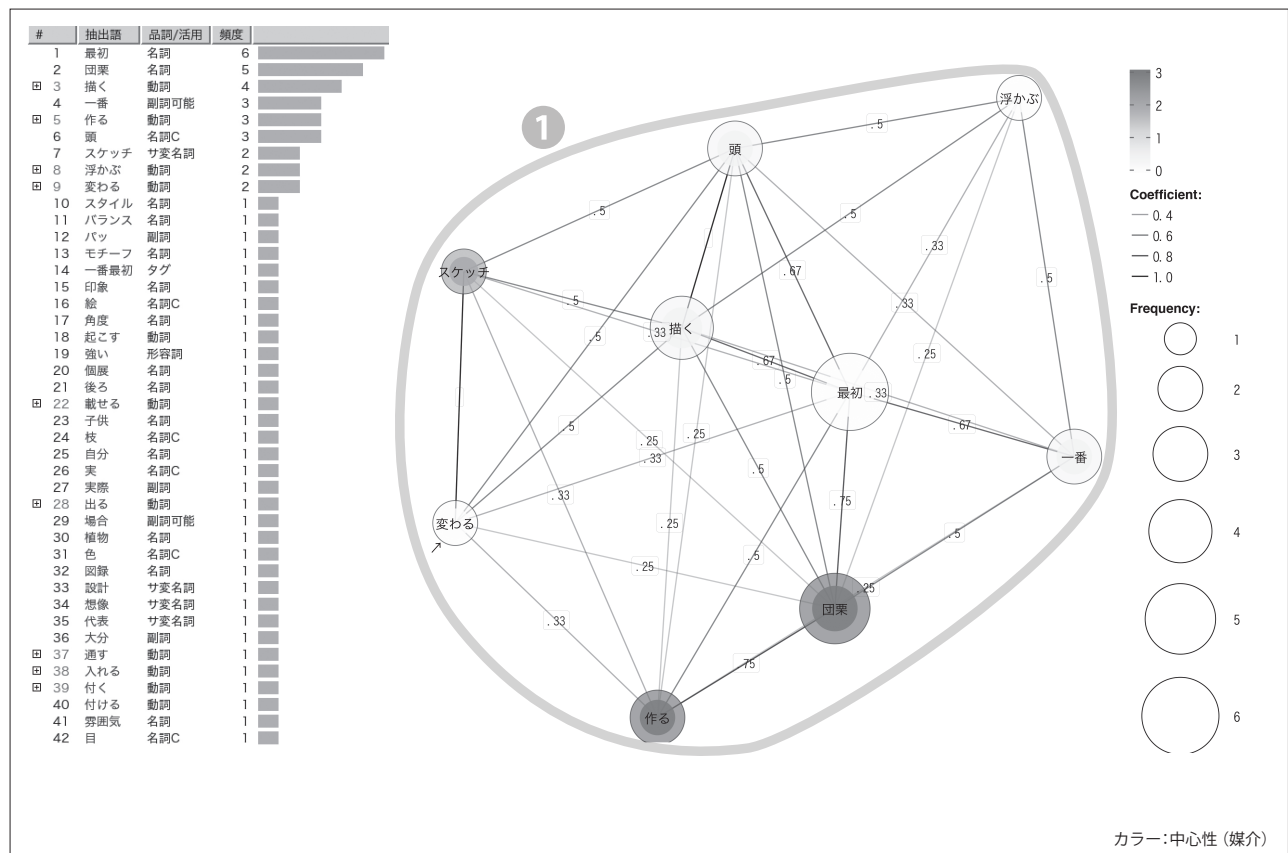


図6 2017.03.25 福屋八丁堀本店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

来てるんですけども」と述べられており、図7に示す作品を確認すると団栗の実が赤い線描きになっていることが確認できる。本展の図録に掲載されている団栗文の作品は、花瓶4点、香炉2点、皿1点、壺1点の計8点であるが、全ての作品の団栗の実が赤で線描きされているということが確認できた。

図8は2017年9月3日仙台市の藤崎百貨店「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。共起ネットワークは『育つ』、『描く』の中心性が高くなっており、「①団栗をモチーフにした理由」として里山で育った「②子供の頃の記憶」があったため一番最初に思い浮かんだということ述べている。また、団栗文のことを“自



図7 濁手団栗文壺⁴と部分拡大

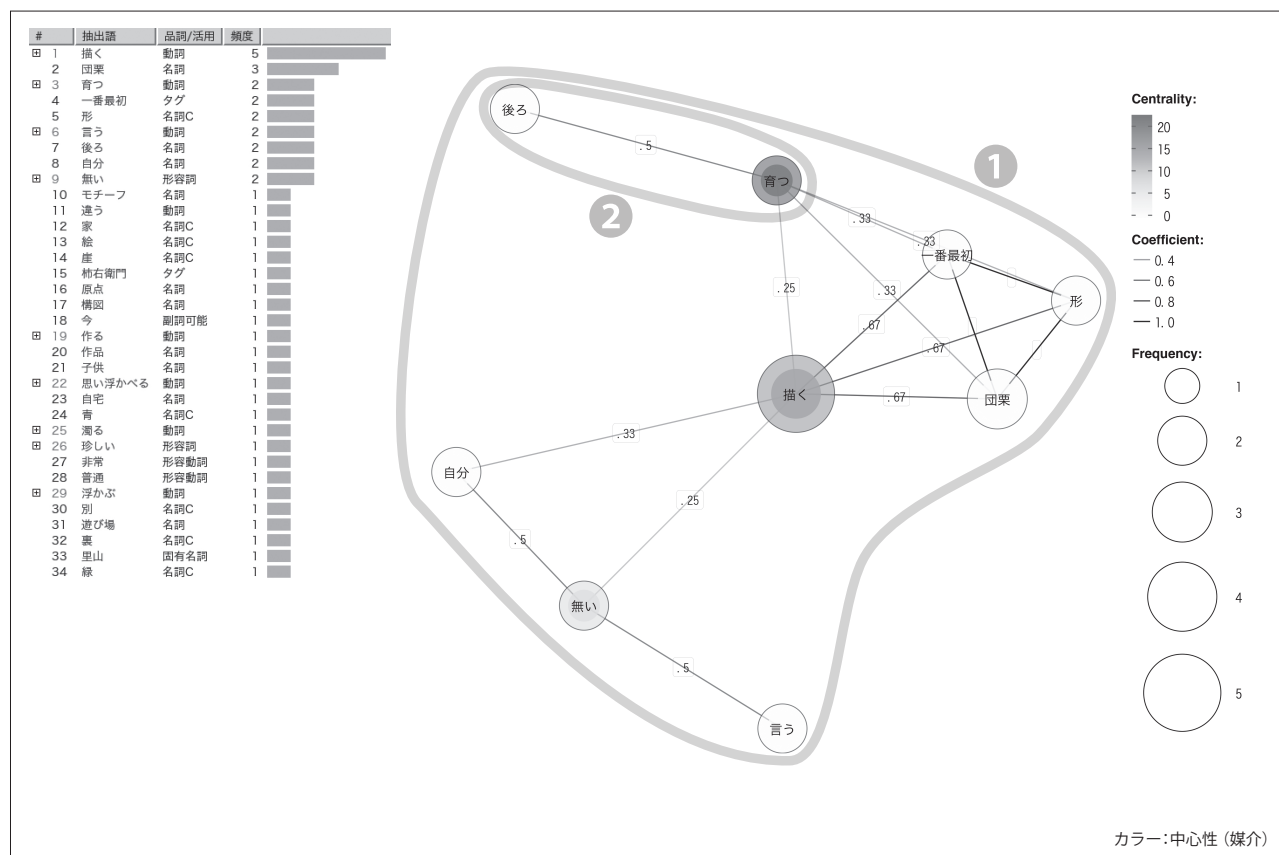


図8 2017.09.03 藤崎における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

分の原点”とも表現されており、十五代の中で自身を象徴する定番のモチーフになっているということがうかがえる。本展の図録に掲載されている団栗文の作品は、花瓶5点、香炉1点、皿1点の計7点であり、団栗の実の線描きは全て赤で描かれている(図9)。

図10は2017年10月28日浜松市の遠鉄百貨店「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。共起ネットワークは『団栗』及び『最初』の中心性が高くなっており、「① 団栗をモチーフにした理由」が主要な内容になっているが、「④ 文様の色に関すること」の中で『赤』という語彙が出現している通り、これまでの解説の



図9 濁手団栗文花瓶⁵

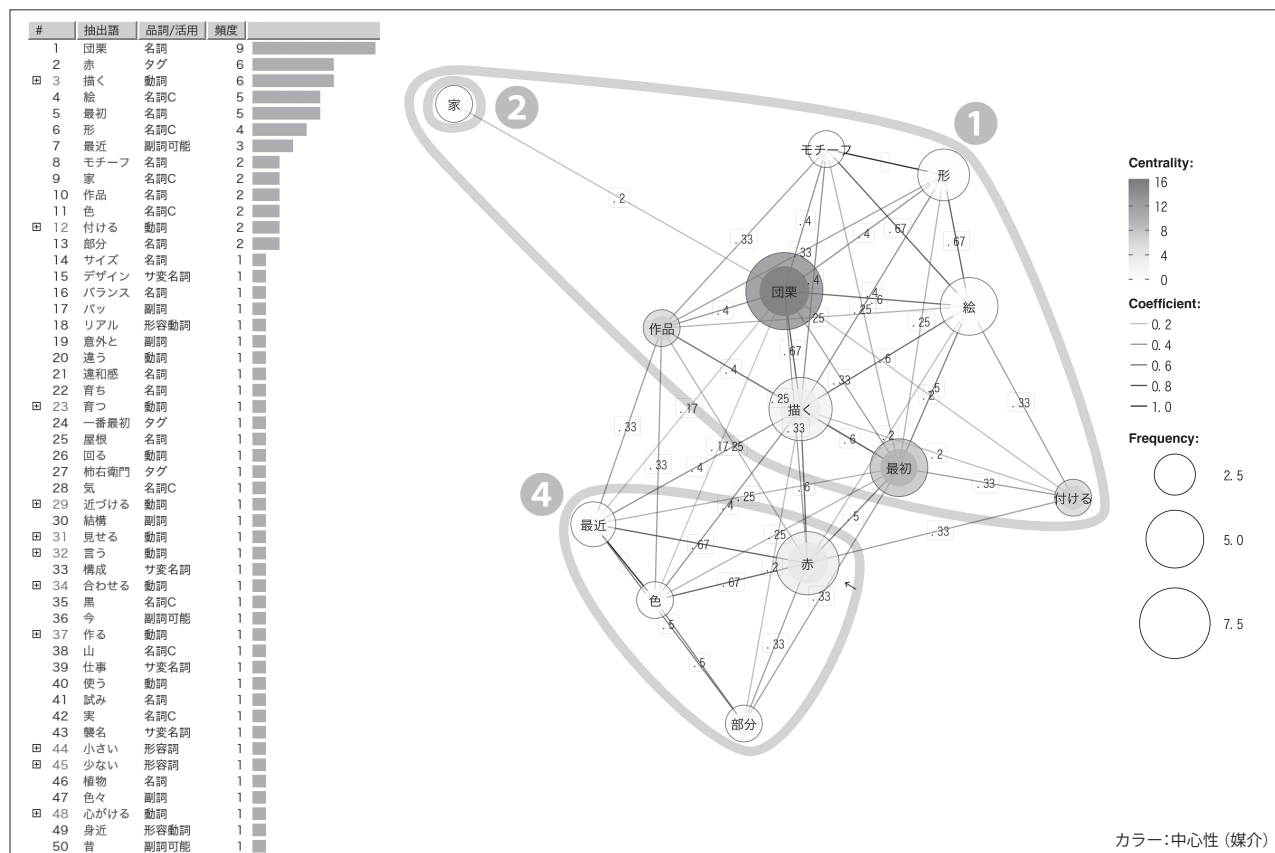


図10 2017.10.28 遠鉄百貨店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

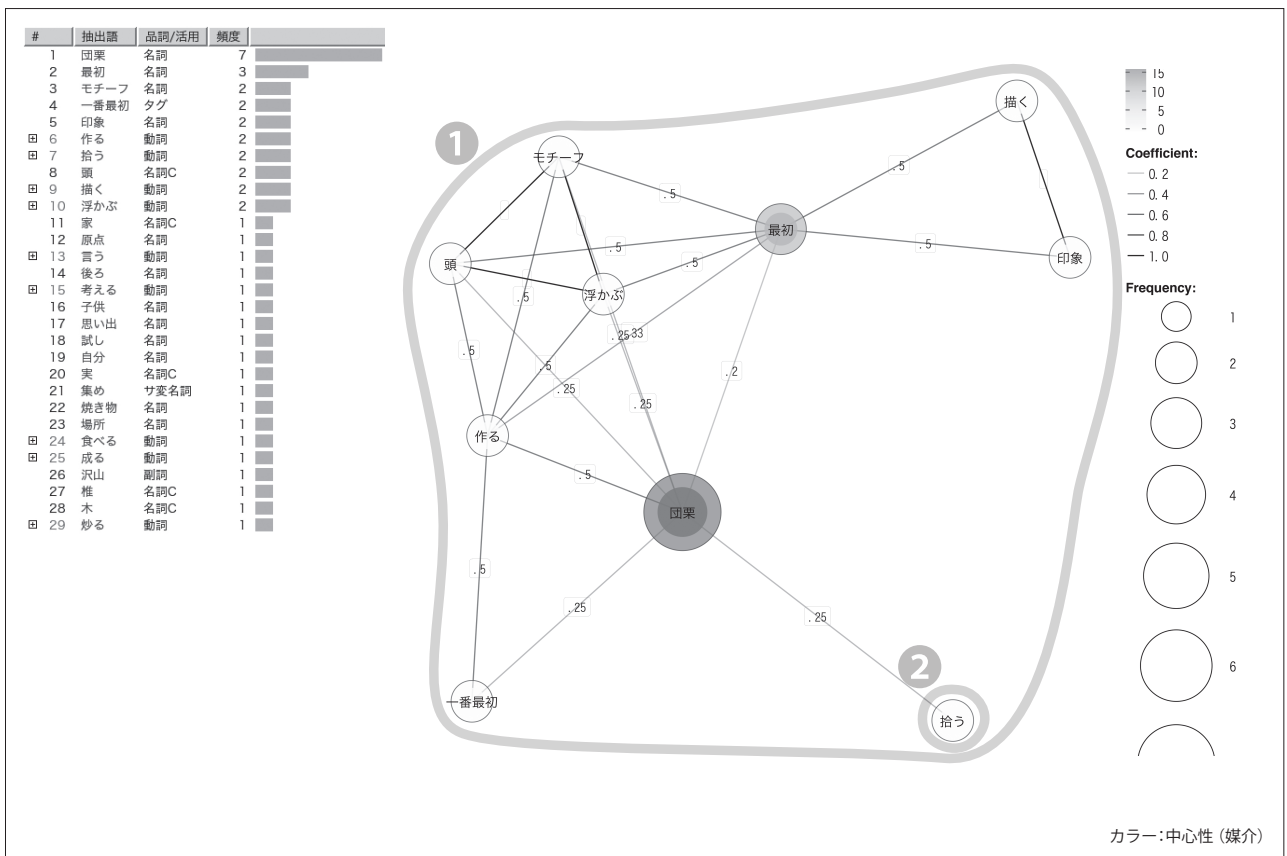


図 11 2017.10.29 遠鉄百貨店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

中で初めて団栗文の実の線描きについて「最近では赤線を使うようにしまして」と明言しており、「赤に拘った作品なので」や「少し赤を綺麗に見せたい」ということも述べられている。他にも「最初には結構リアルな比率で、かなり大きく葉の部分を描いてましたので、バランス的に赤の部分が少なくなりましたので『今までと大分違う色になりましたね。』と言われることが多かったです」と述べられており、これまでに比べて赤への意識が強く表れていることがわかる。

図 11 は 2017 年 10 月 29 日 浜松市の遠鉄百貨店「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。図 10 と同じ個展であるが、時間配分の関係から団栗文の色に関する話題が省略され、「①団栗をモチーフにした理由」と「②子供の頃の記憶」が主要な内容となっている。本展の図録に掲載されている団栗文の作品は、花瓶 4 点、香炉 1 点、皿 1 点、鉢 1 点、壺 1 点の計 8 点であり、団栗の実の線描きは全て赤で描かれている (図 12)。



図 12 濁手団栗文花瓶⁶

図 13 は 2018 年 4 月 4 日 福岡市の大丸天神店「十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。全体の時間配分の関係で団栗文の作品解説は短時間で行われたが、共起ネットワークを見てわかるように「①団栗をモチーフにした理由」

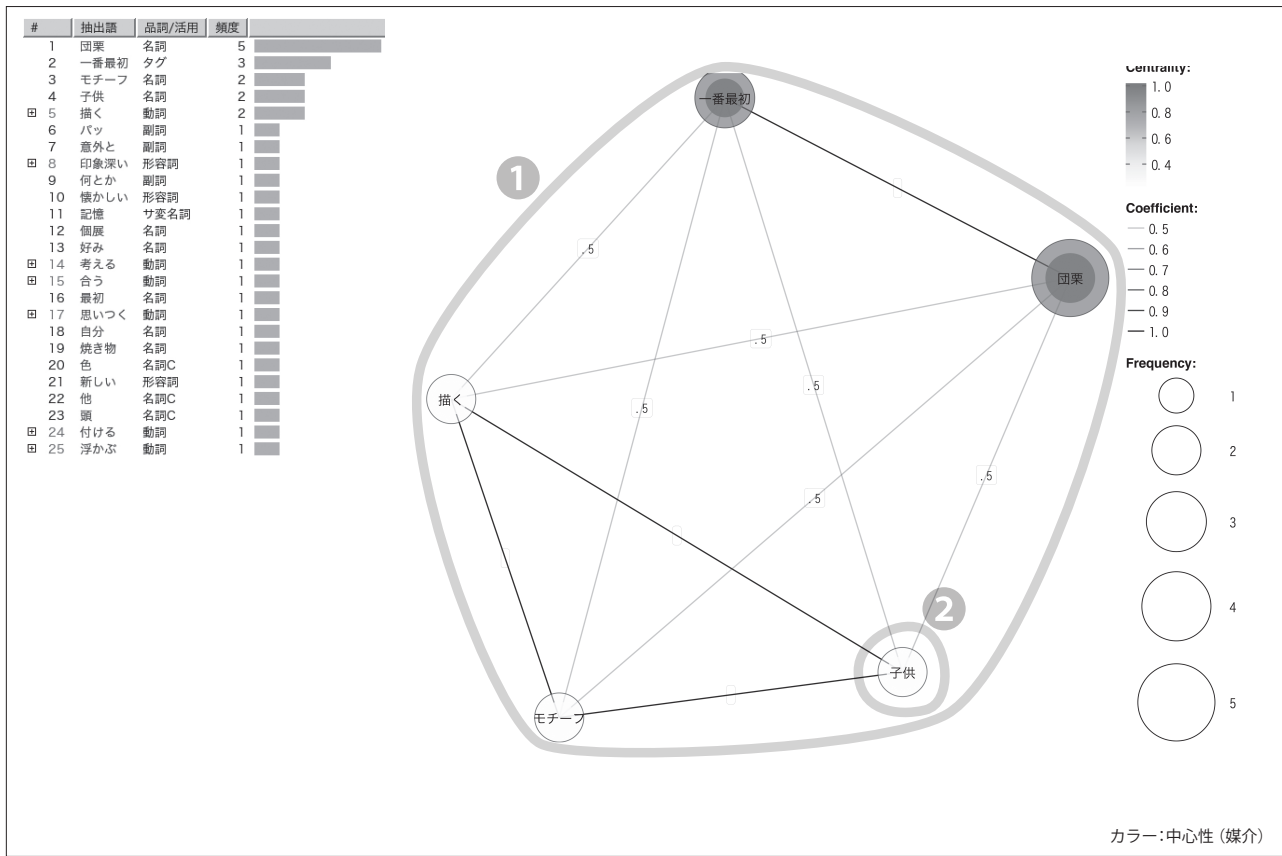


図 13 2018.04.04 福岡大丸天神店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

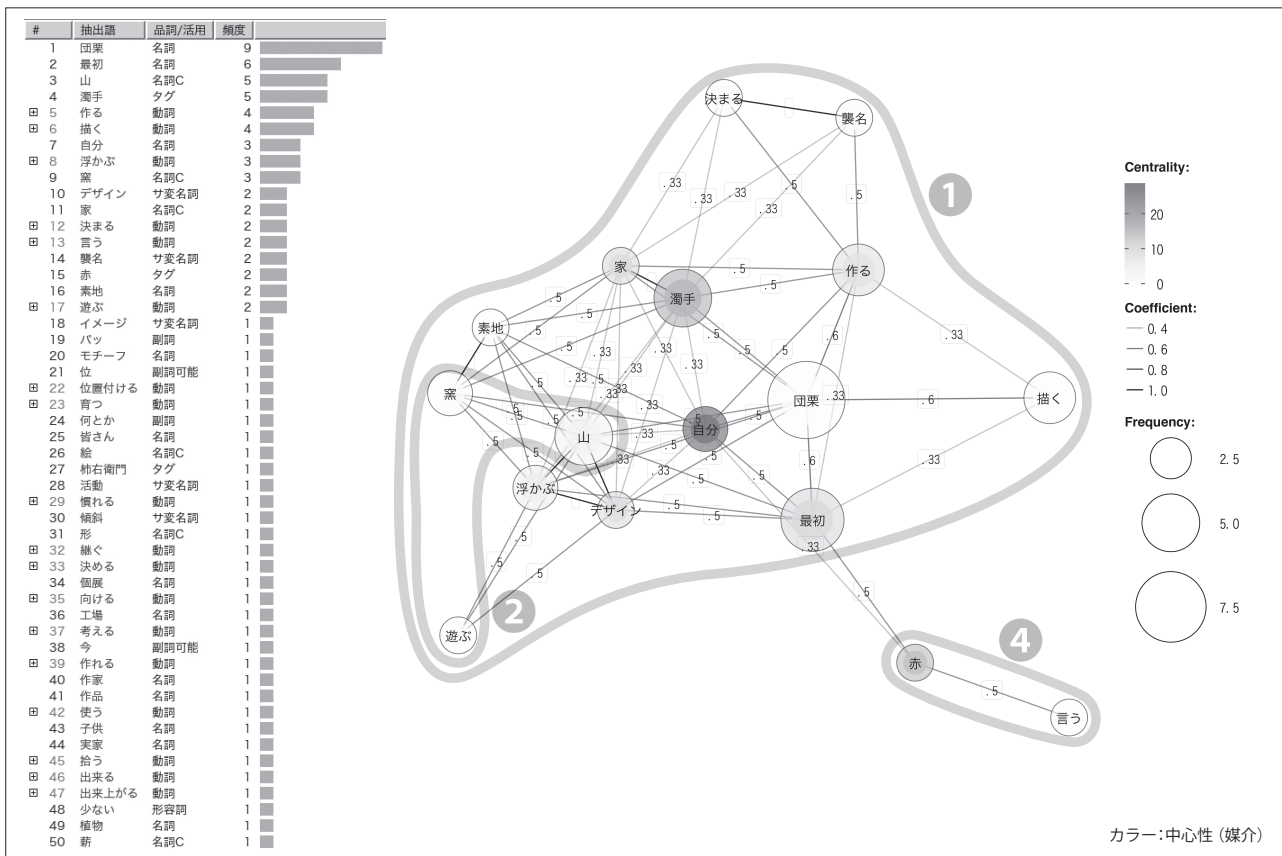


図 14 2018.04.08 福岡大丸天神店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

と「**②**子供の頃の記憶」という内容をコンパクトにまとめて解説しており、ギャラリートークの経験を重ねる中で団栗文の解説内容が定着したものと考えられる。また、ケバ取りのため共起ネットワークには表示されていないが、「あの」や「まあ」などの繋ぎ言葉も減少傾向にあり、ギャラリートークに落ち着きや安定感が感じられた。

図 14 は 2018 年 4 月 8 日 福岡市の大丸天神店「十五代酒井柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。図 13 と同じ個展であるが、団栗文の作品解説のボリュームが大きく、「**①**団栗をモチーフにした理由」と「**②**子供の頃の記憶」という内容が中心になっており、「**④**文様の色に関すること」



図 15 濁手団栗文皿⁷

では団栗文の色について「赤い団栗ばかり描いたら自分の中では普通になったんですけども」や「最初は何か赤が少ないですねなんて言われてたんですけど、もうちょっと皆さん慣れていただけてきてるみたいでそれはあまり言われなくなりました」と述

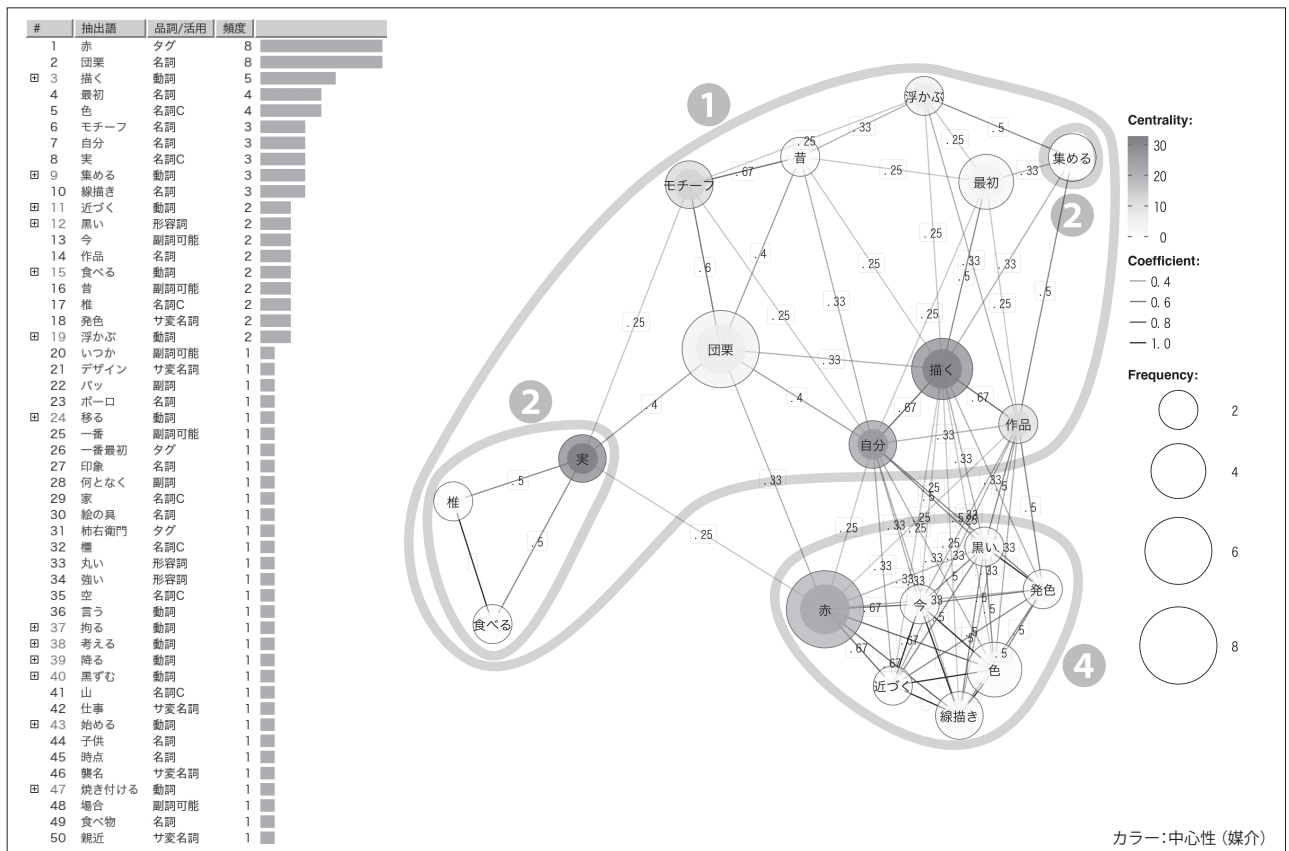


図 16 2018.05.12 日本橋タカシマヤにおける団栗文に関するギャラリートークの分析結果

べられており、十五代の内外で赤い団栗が定着してきたということがうかがえる。十五代の襲名5年目最初の個展となる本展から、タイトルの「襲名記念」という文字が外され、ギャラリートークでは「襲名前後の話」が若干コンパクトになり、作品解説に割かれる時間の割合が増えた。なお、本展の図録に掲載されている団栗文の作品は、花瓶3点、皿1点、水指1点、花器1点の計6点であり、団栗の実の線描きは全て赤で描かれている（図15）。

図16は2018年5月12日東京都の日本橋タカシマヤ「十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。共起ネットワークは「赤」と『描く』が出現頻度及び中心性がともに高くなっており、



図17 濁手団栗文花瓶⁸

特に『赤』の周辺には『黒い』や『線描き』、『色』、『発色』など共起性の高い語彙が多数出現している。作品解説は「①団栗をモチーフにした理由」と「②子供の頃の記憶」が主要な内容になっているが、「④

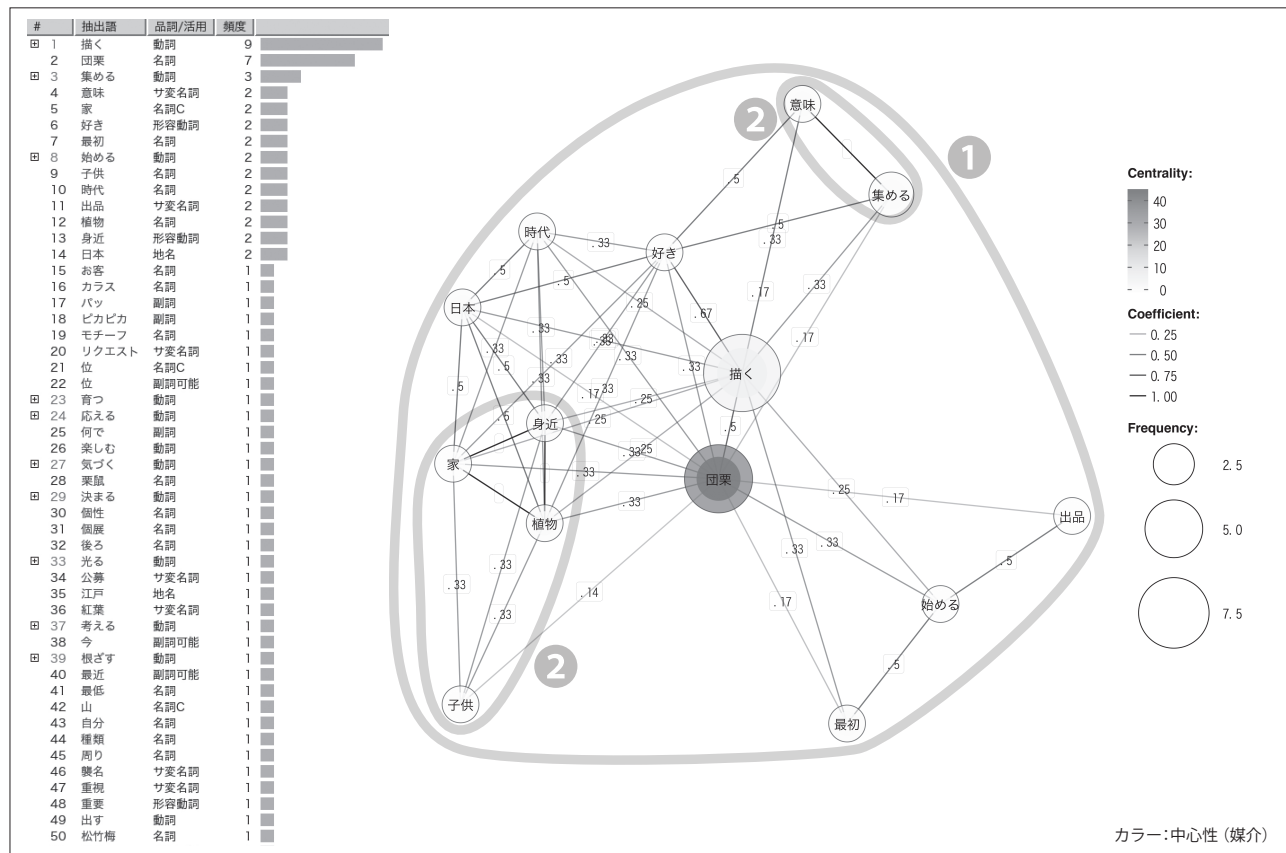


図18 2018.09.23 そごう神戸店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

では作品の色や形については触れられず、襲名直後から最初の個展に関する内容が多くなっている。本展の図録に掲載されている団栗文の作品は、花瓶3点、花器1点の計4点であり、団栗の実の線描きは全て赤で描かれている（図19）。

図20は2018年10月6日京成百貨店「十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。共起ネットワークは『団栗』と『使う』の中心性が高くなっており、『赤』、『団栗』、『色』の出現頻度が高くなっている。色に関する語彙に『黒い』や『青』などが出現しているが、『黒い』については『赤』との間に『線』があることから“黒い線から赤い線に変えた”ということが表れていると考え



図21 濁手団栗文花瓶¹⁰

られる。一方で『青』は「調合を先代と少し変えたりとかですね、<中略> 私は17世期の柿右衛門様式の色ということに拘りまして、昔の色に戻ったという感じですよ」と述べてられおり、色に関する拘り等について解説される機会が増えてきている

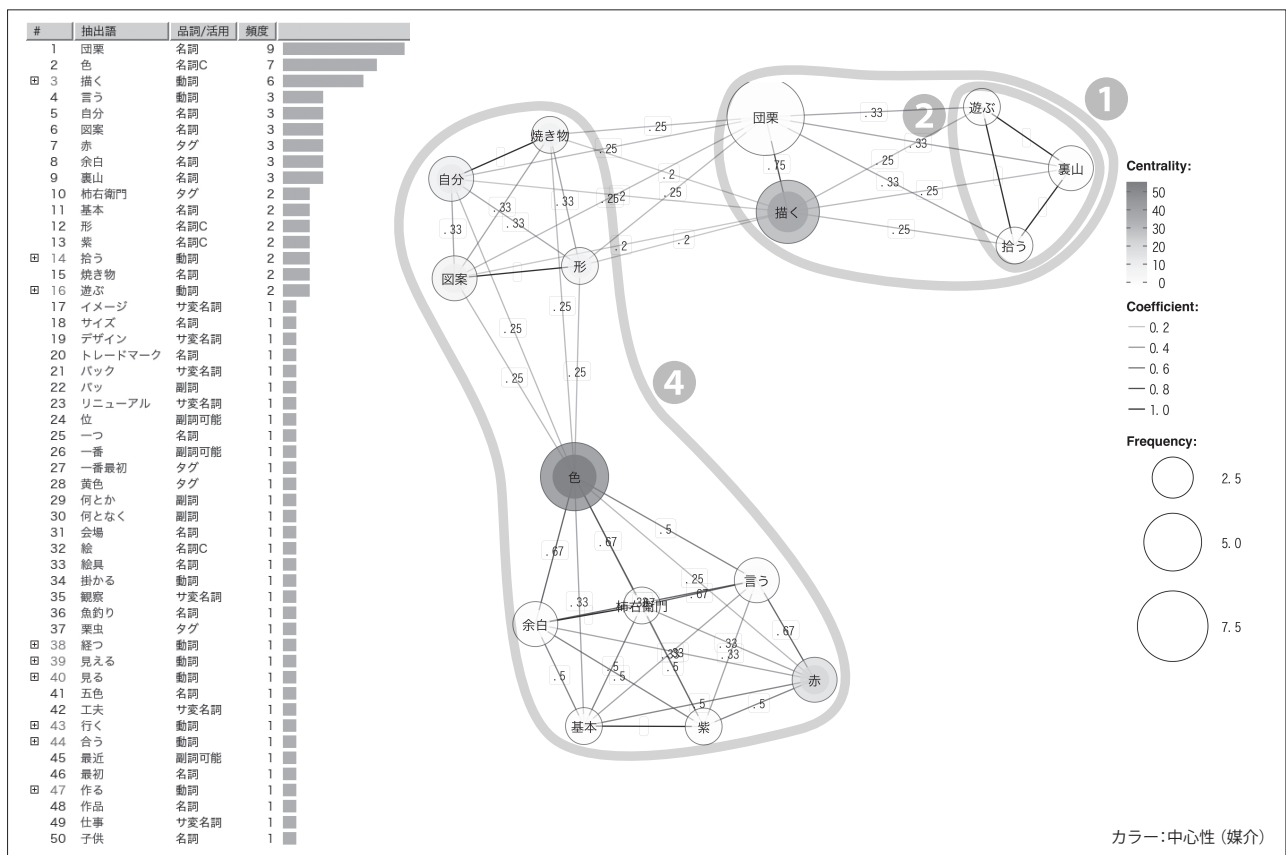


図22 2019.12.07 浜屋百貨店における団栗文に関するギャラリートークの分析結果

ことがわかる。共起ネットワークをみると「① 団栗をモチーフにした理由」と「② 子供の頃の記憶」に関する内容が主軸となっているが、「④ 文様の色に関すること」が作品解説の半分近くを占めており、赤をはじめとした色について関心が高まりつつあると考えられる。本展の図録に掲載されている団栗文の作品は、花瓶3点、壺1点、水指1点、花器1点の計6点であり、団栗の実の線描きは全て赤で描かれている（図21）。

図22は2019年12月7日 浜屋百貨店「十五代酒井田柿右衛門展」における作品解説の分析結果である。共起ネットワークは『色』と『描く』の中心性が高くなっており『団栗』、『色』、『描く』の出現頻度が多くなっている。「① 団栗をモチーフにした理由」と「② 子供の頃の記憶」に関する語彙でコンパクトにまとめられているが、その一方で「④ 文様の色に関すること」の『色』に関係する語彙が増えている。解説内容をもとにみると、5色の柿右衛門様式の基本色について解説されており「5色の色が基本の色になってます。それに各代各代で1色2色足したりとかそういうことをしてるんですけども、その色の組み合わせとか、バックの余白と絵具の比率とかですね、そういうことで柿右衛門風を醸し出してる」と述べられている。また『赤』については、「最近葉っぱのサイズも少し小さくしまして、赤が目立つようにと思って工夫してるんですけども、徐々に新しくなるっていうかですね、変化していくんだろうなっていう感じもあります。」と述べられており、「④ 文様の色に関すること」が作品解説の半分以上を占めていることから、赤に加えて余白や配色のバランスに関しても関心が強くなりつつあると考



図23 濁手団栗文花器¹¹

えられる。

以上、各個展の分析結果の傾向として、現在にかけて『赤』や『色』に関する語彙が増え、解説の中での頻度が多くなりつつある。特に『赤』に対する意識が徐々に強くなっていることが顕著であった。また、基本の5色や余白とのバランスなど『色』に対する意識も広がりを見せている。

収集した図録に掲載されている団栗文の作品をデザインごとに分け、個展毎に時系列に並べると、表3のようになる。団栗文の線描きの色に関して、収集した図録から得られる範囲で、色が変わったと考えられる期間をグレーで表中に示しているが、黒い線描きが確認できるのは2016年7月の広島三越及び10月の福岡三越に出品された濁手団栗文壺が最後であり、2017年1月の丸広川越店以降の展示では、全ての団栗文の線描きが赤に変わっていることが確認できる。

5. 団栗文と共通した傾向を示すモチーフについて 団栗文の作品解説における「赤に拘った作品なので」

2018

近鉄百貨店

福岡大丸天神店

日本橋タカシマヤ

神戸そごう

京成百貨店

京都高島屋

2019

岡島百貨店

岡山高島屋

千葉そごう

天満屋岡山店


































































大分トキハ本店

八木橋百貨店

長崎浜屋

2020

西武福井店

11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											
																											

や「少し赤を綺麗に見せたい」（2017年10月28日遠鉄百貨店）という発言や「やっぱりウチの場合はですね、赤に拘ってますので」や「調合した赤の色を尊重したいという風になってきてまして」（2018年5月12日日本橋タカシマヤ）という発言は、団栗文だけではなく作品全般に共通する意識と捉えることができる。そのため、団栗文と同じく赤に関して変化が認められるモチーフを図録から抽出した。

まず、松文の線描きに団栗文と同じ傾向が認められ、2014年に制作された濁手松文水指（図24）の松笠の部分を見てみると、松笠の輪郭が黒で線描きされている。しかし、2017年9月の藤崎における個展での濁手松文鉢の松笠は赤く線描きされており（図25）、これ以降の松笠は全て赤で線描きされている。団栗文に比べると作品点数が少なく、作品解説される機会も少ないため、具体的にどの時点で赤く変化したのかということまでは明らかにできない。しかし、線描きの色が黒から赤に変化した時期は、団栗文の線描きの色が変化した「2016年7月から2017年1月」の範囲と重なっており、団栗文と同様に赤に対する意識が関係している可能性が考えられる。また、これまでの調査の中で松文の作品解説は2回行われており、共起ネットワークを図26と図27に示しているが、話の内容は松文の葉の長さや形などが中心で色に関する語彙は確認できない。

つぎに、団栗文の線描きの色の变化とは若干様子が異なるが、桜文にも赤に関する意識の変化を認めることができる。収集した図録に掲載されている桜文の作品をデザインごとに分け、個展毎に時系列に並べると表4のようになる。収集した図録から得られる範囲

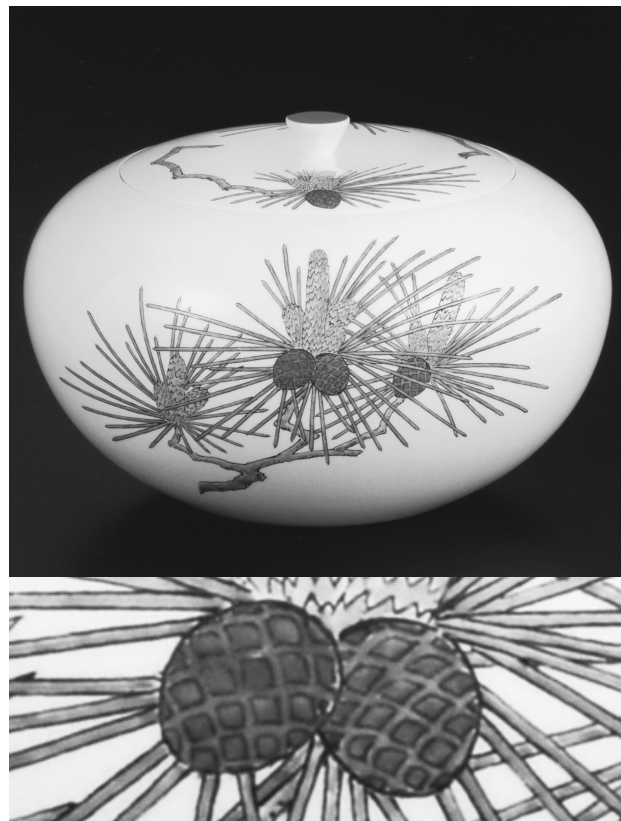


図24 濁手松文水指と松笠部分拡大（2014年）柿右衛門窯蔵



図25 濁手松文鉢と松笠部分拡大（2017年9月藤崎）¹²

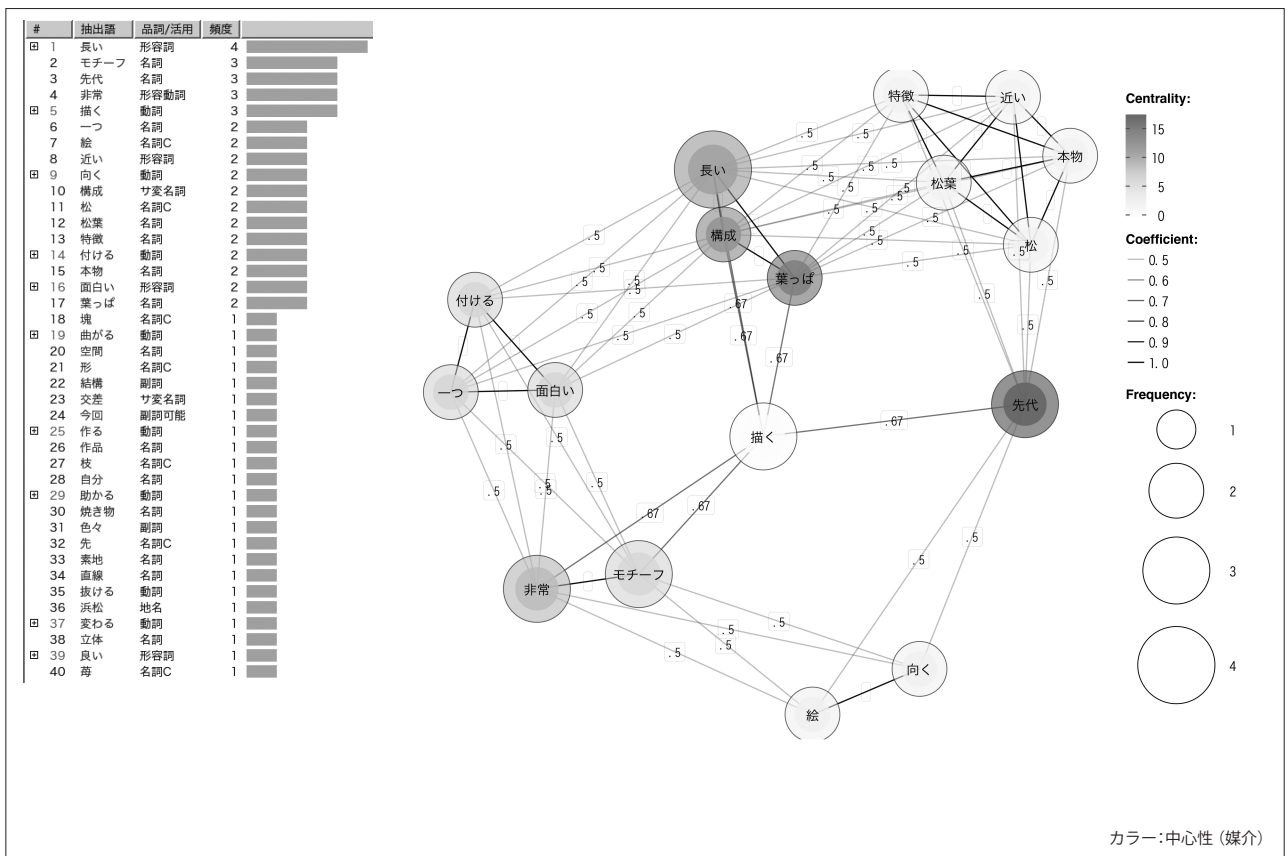


図 26 2017.10.29 静岡遠鉄における松文に関するギャラリートークの分析結果

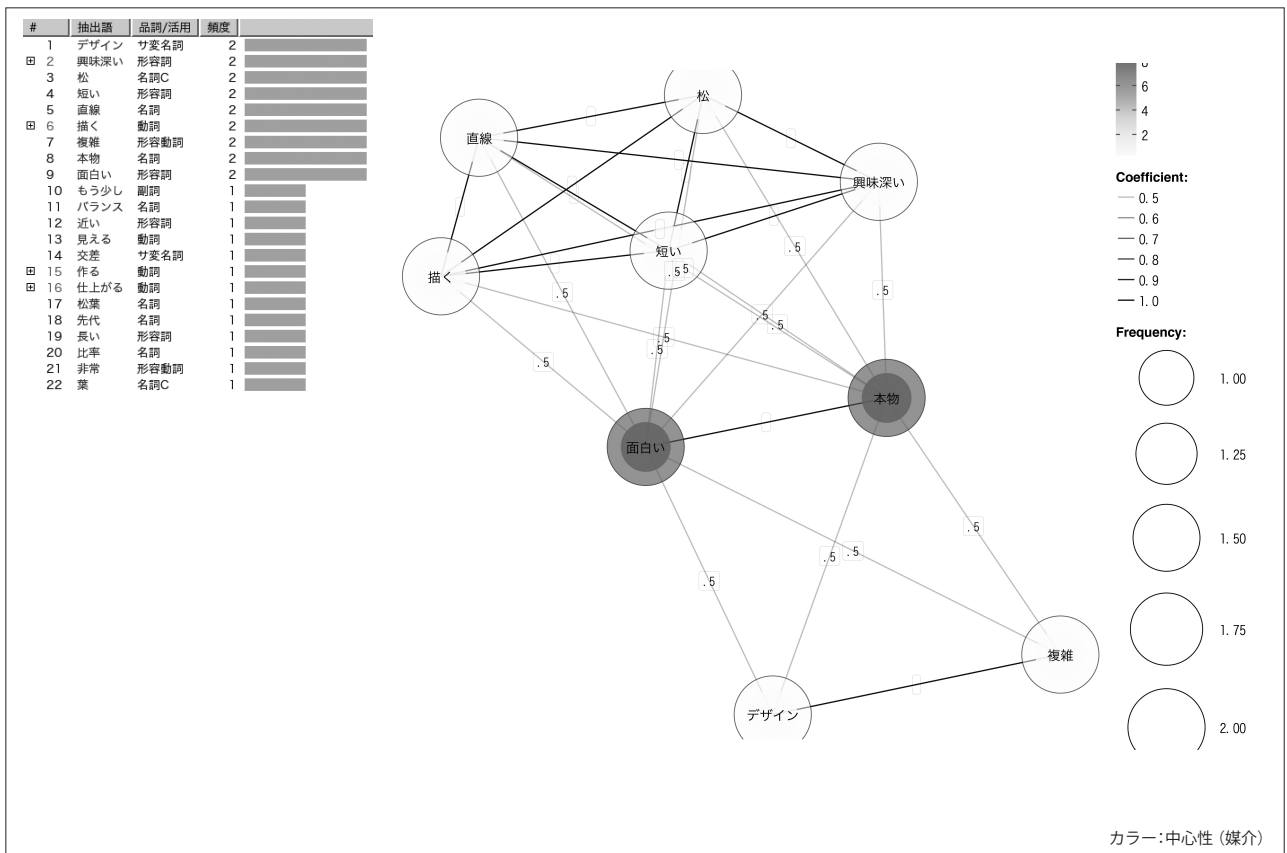
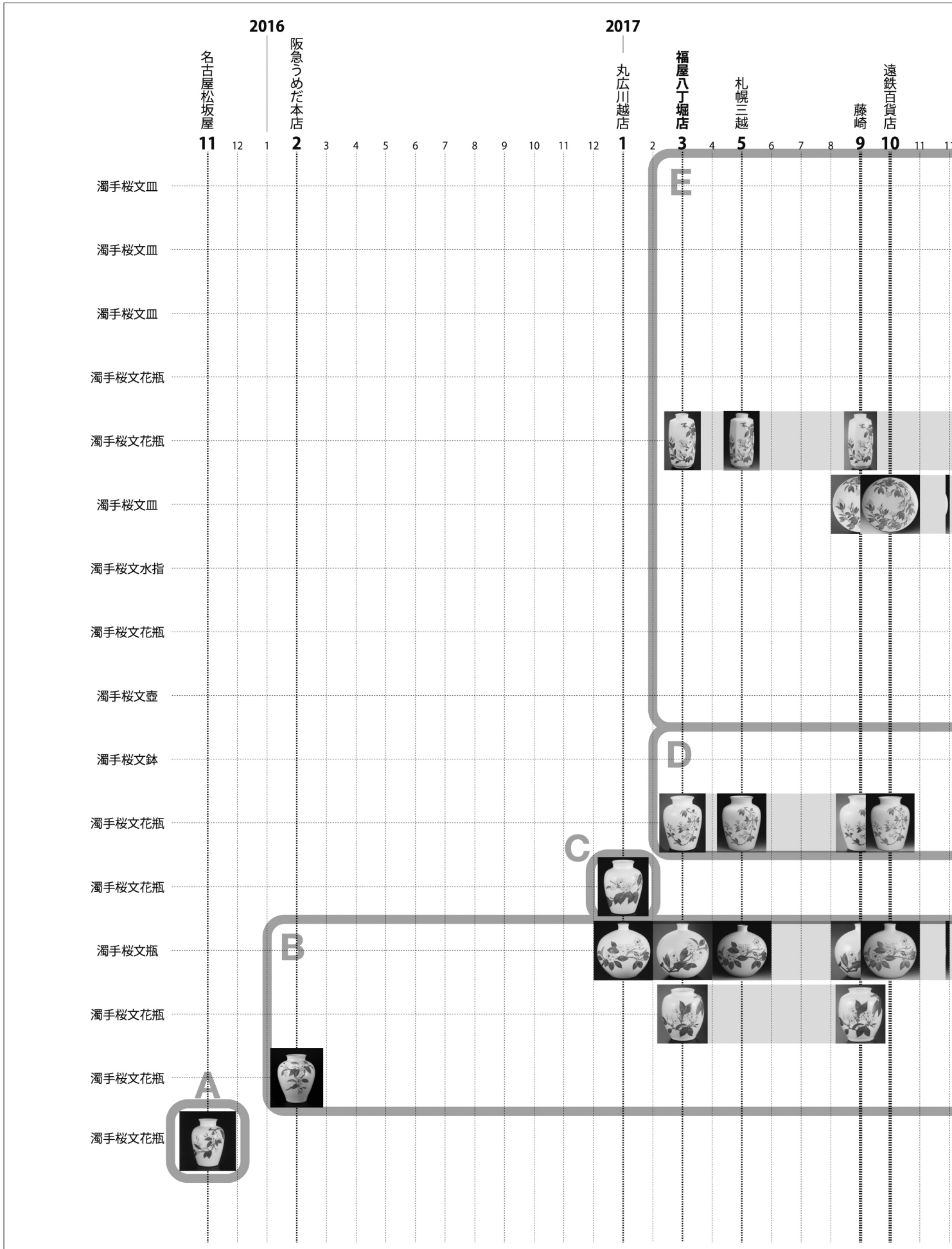


図 27 2018.05.12 日本橋タカシマヤにおける松文に関するギャラリートークの分析結果

表4 収集した図録から抽出した桜文の作品一覧



2018

2019

2020

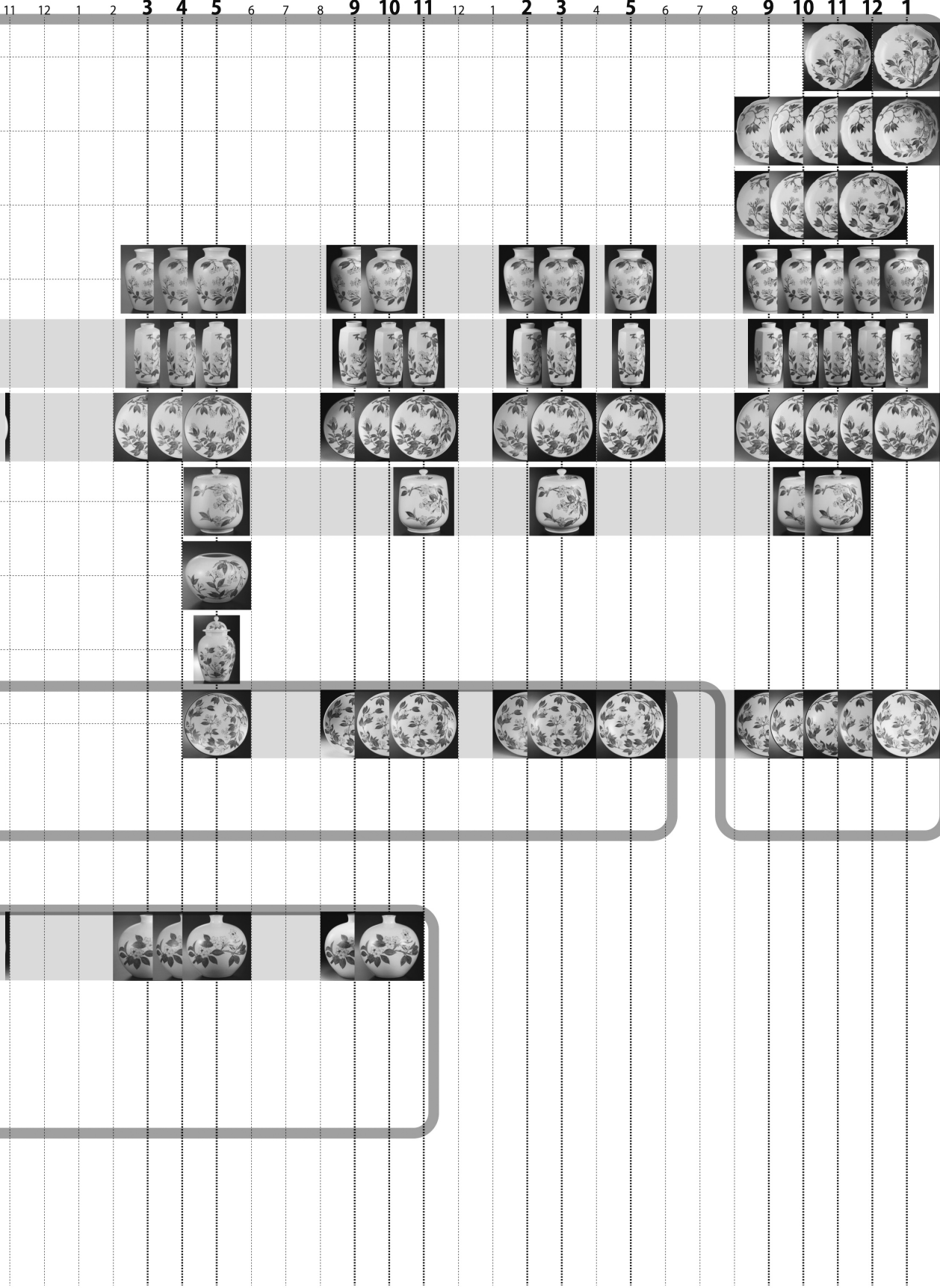
日本橋タカシマヤ
福岡大丸天神店
近鉄百貨店

京都高島屋
京成百貨店
神戸そごう

岡山高島屋
岡島百貨店

千葉そごう

西武福井店
長崎浜屋
八木橋百貨店
大分トキハ本店
天満屋岡山店



A タイプ



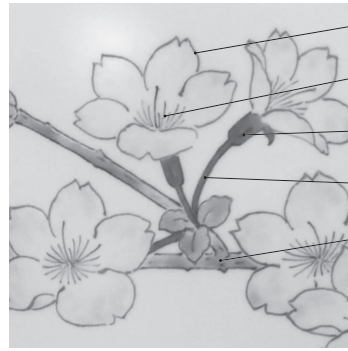
- 花弁 : 黒 (線描き)
- 雄蕊雌蕊 : 黒 (線描き)
- がく筒 : 赤
- 花柄 : 黄緑
- 茎 : 青

B タイプ



- 花弁 : 赤 (線描き)
- 雄蕊雌蕊 : 黒 (線描き)
- がく筒 : 赤
- 花柄 : 黄緑
- 茎 : 青

C タイプ



- 花弁 : 赤 (線描き)
- 雄蕊雌蕊 : 黒 (線描き)
- がく筒 : 赤
- 花柄 : 赤
- 茎 : 紫

D タイプ



- 花弁 : 赤 (線描き)
- 雄蕊雌蕊 : 赤 (線描き)
- がく筒 : 赤
- 花柄 : 黄緑
- 茎 : 紫

E タイプ



- 花弁 : 赤 (線描き)
- 雄蕊雌蕊 : 赤 (線描き)
- がく筒 : 赤
- 花柄 : 赤
- 茎 : 紫

で判断すると、桜文の配色パターンには5種類あり(図28)、Aタイプは花弁と雄蕊・雌蕊の線描きが黒でがく筒は赤、花柄が黄緑であり茎は青という配色である。Bタイプは花弁の線描きが赤で雄蕊・雌蕊の線描きが黒、がく筒は赤、花柄が黄緑で茎は青という配色である。Cタイプは花弁の線描きが赤で雄蕊・雌蕊の線描きが黒、がく筒は赤、花柄が赤で茎は紫という配色である。Dタイプは花弁と雄蕊・雌蕊の線描きが赤でがく筒は赤、花柄が黄緑で茎は紫という配色である。Eタイプは花弁と雄蕊・雌蕊の線描き、がく筒、花柄が赤で茎は紫という配色であり、赤の割合が最も多くなっている。これら5種類のタイプが混在しながら個展に出品されてきており、それぞれの出品状況を見てみると2017年1月にはB及びCタイプが出品されており、2017年3月から2018年10月にはB、D、Eタイプが出品されている。2019年2月から2019年5月まではD及びEタイプが出品されており、2019年9月以降はEタイプのみが出品されていることがわかる。団栗文の線描きのように部分的に色が置き換わったものは、Dタイプに分類されている濁手桜文鉢

図28 桜文にみられる5つの配色パターン

の花柄部分が2019年9月以降に黄緑から赤に変わったということのみであり、全体の推移をみると赤を多く使用した作品に徐々にシフトし、現在Eタイプが主流になっているということがわかる。なお、桜文の作品解説はこれまでに3回行われたが、図29から図31に示している共起ネットワークをみると、話の内容は色に関する話題が中心であり、『描く』、『最初』、『赤』、『黒』、『今』、『青』、『変わる』、『モチーフ』など団栗文と共通する語彙の出現が同時期に認められる。従って、桜文の色の移り変わりも十五代の『赤』や『色』に対する意識の変化を表しているものと考えられる。

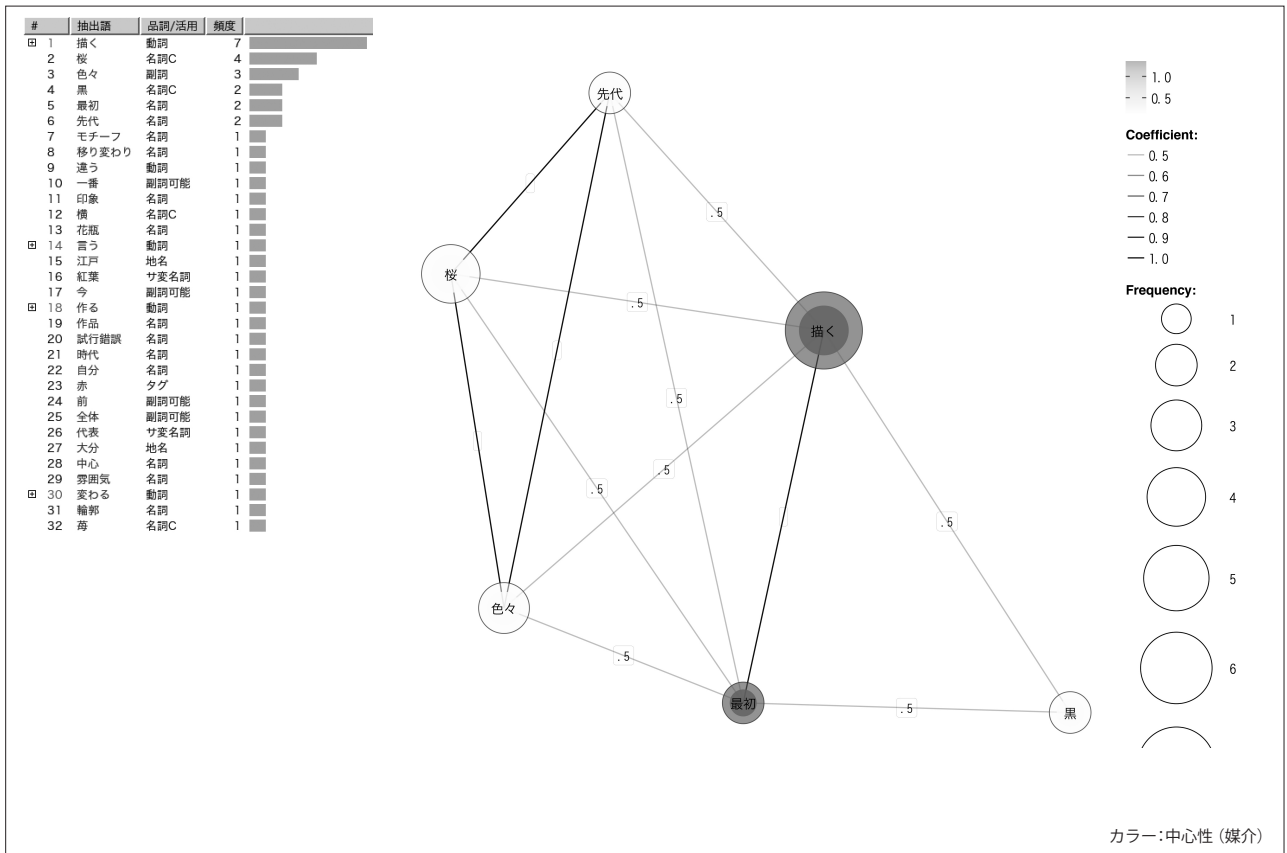


図 29 2017.3.25 福屋八丁堀店における桜文に関するギャラリートークの分析結果

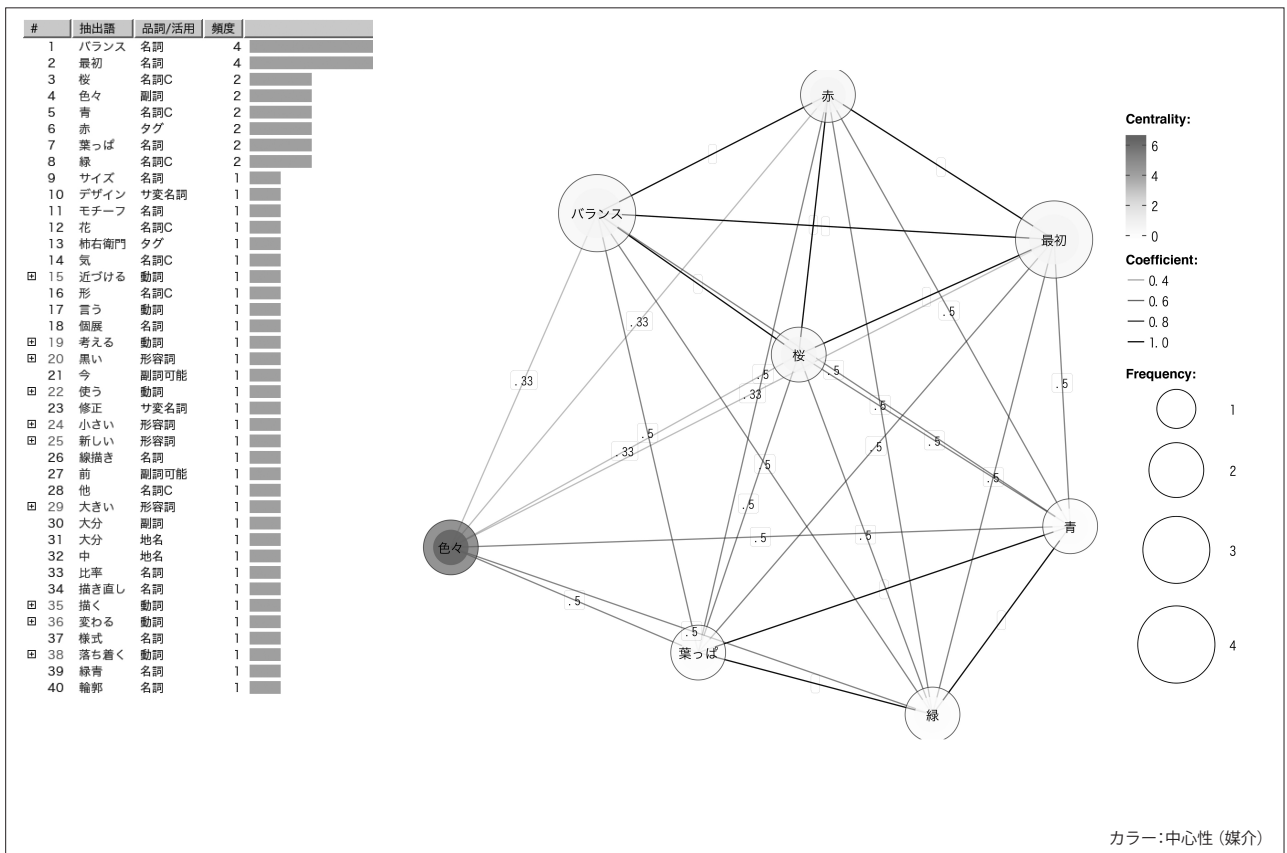


図 30 2018.4.8 福岡大丸における桜文に関するギャラリートークの分析結果

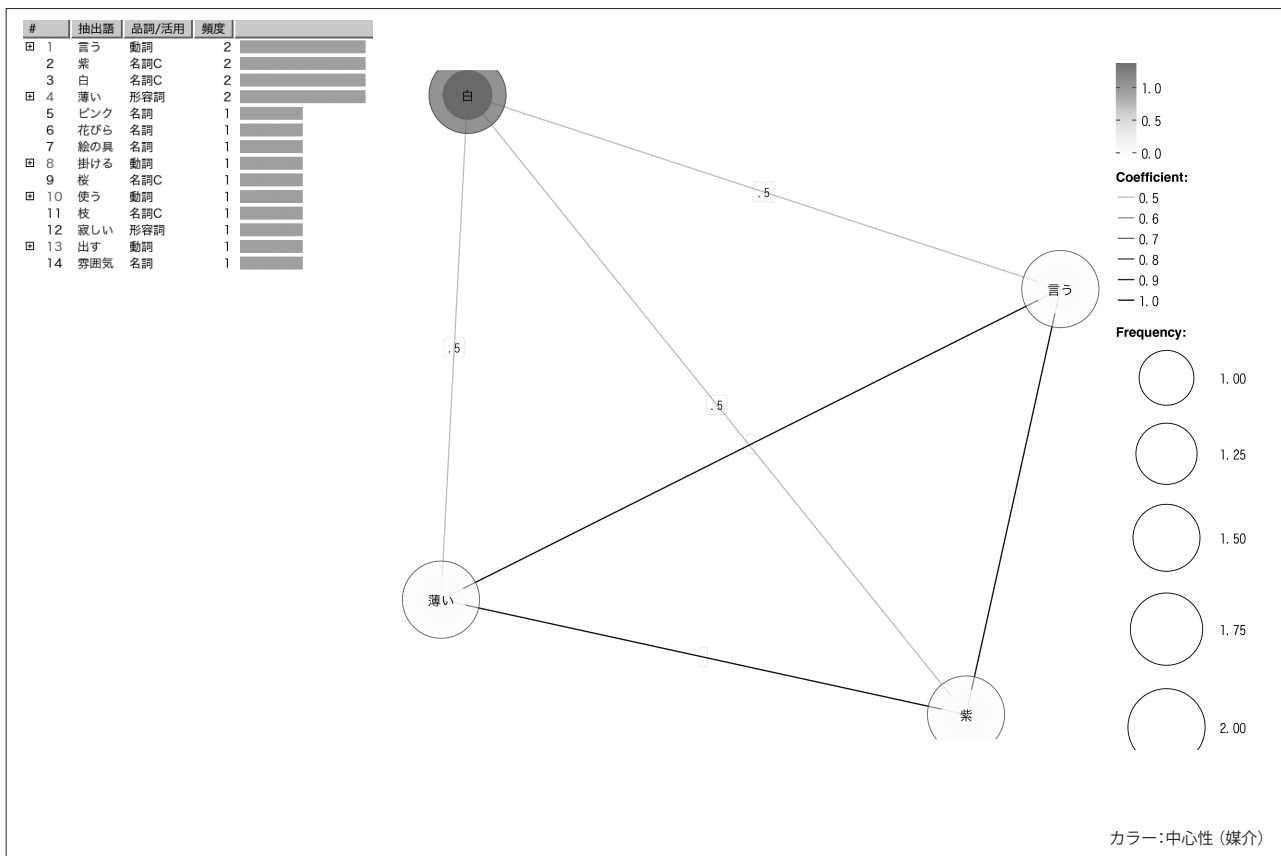


図 31 2018.9.23 神戸そごうにおける桜文に関するギャラリートークの分析結果

6. 考察

団栗文では実の線描きが黒から赤に変わり、松文も同様に松笠の線描きが黒から赤に変わったように、赤を意識するようになった理由として「(柿右衛門が)赤に拘った作品」であることや「赤を綺麗に見せたい」という想いがあげられるが、その考えに至るための端緒というものがあつたはずである。十五代は「工芸品としても納得していただけるものを作りたい」とよく述べられるが、本来工芸によって制作されるものは日常生活に用いるものであるが、柿右衛門には飾って楽しむという美術品としての一面がある。その中で濁手作品は、現代で手に入る最も高品質な原材料を使い、柿右衛門窯における最高の技術を以て制作されるといふ美術的な要素が強い工芸品に属するが、焼き物の歴史を辿ると産業として繁栄するために、その時代その時代で需要に対応した製品を生産してきたという側面があり、その性質上顧客の意見は決して無視できないところがある。ギャラリートークの際に「バランス的に赤の部分が少なくなりまして『今までと大分違う

色になりましたね。』と言われることが多かったんです(2017年10月28日)。」や「最初は何か赤が少ないですねなんて言われていたのですけれども、もうちょっと皆さん慣れていただけてきているみたいでそれはあまり言われなくなりました(2018年4月8日)。」など顧客からの意見や評価を気にしているような発言からもわかるように、十五代が『赤』を意識することに顧客の声が影響し、緑や青が多かった団栗文と松文の線描きが一部赤い線描きに変更されたと考えられる。一方で桜文は、一部のデザインの花柄が黄緑から赤に変わっただけで、表4に示した通り配色が5種類あるデザインのうち、花の部分に赤を多く使っているEタイプだけが出品されるように変化しているが、デザインをそのままに色だけを変えなかった理由として、十五代はモチーフに忠実な色を用いることが多く、例えば初期の団栗文は線描きを黒にすることによって濃の赤に黒を滲ませて茶色っぽく発色させ、葉のサイズも実物に忠実に現在よりは大きく描く傾向があつた。また、赤を使わない柿右衛門として知られる唐梅文で

あるが、この文様についても花を赤にすると蠟梅の花に見えないという理由で実物と同じ黄色が用いられた。さらに桜文においても、花卉に薄い紫を用いてピンクっぽく演出するなど実物に忠実な十五代の作風から、モチーフとした桜の品種が違うため配色をあえて変えなかったということが可能性として考えられる。また、団栗文の線描きの変化に比べると桜文は非常にゆるやかに赤を使った作品に移り変わっているが、これについては単純に人気があり評判の良いデザインにシフトしていったとも考えられるが、明らかにEタイプの作品が増えたのが2018年3月以降からであり、団栗文に変化がみられてから約1年後になる。2017年1月の丸広川越店より前に開催された個展の情報を所有していないため推測の域を出ないが、Eタイプは2018年3月に1作品、2018年5月には4作品の新作を出品しており、Dタイプについては2018年5月に1作品新作を出品していることがわかる。つまり、制作の時間を考えると団栗文の線描きの赤の評価を得た後に制作したということが考えられ、団栗文は十五代自身が「自分の原点」と述べられている通り、十五代を象徴する文様であることから最初に変更を加えた可能性が考えられる。従って、団栗文の変化が他の文様にも影響していることが考えられ、似た傾向が見られるモチーフが他にも存在している可能性が考えられる。

十五代の「ウチの場合はですね、赤に拘ってますので」という発言にもあるように、特に赤は柿右衛門を象徴する色であり、いわゆる『柿右衛門らしさ』という意識が強くなりつつある。2018年9月神戸そごうのギャラリートークにおいて十五代は「私の今の作風はですね、もうシンプルにいろんな（素地

の)形にモチーフだけ描いていく」と述べられているが、襲名から6年が経過し2020年2月4日に7年目を迎えた現在は、柿右衛門様式磁器の文様の量と余白について関心を寄せている。十五代によると、17世紀の柿右衛門様式磁器は、現代よりも文様が密に量的に多く描かれているが、余白という空間があるとのことで、十三代は文様を大きく描き余白のバランスを取るスタイルで、十四代は文様は最小限で良いという引き算の考え方だった。十五代は「文様がしっかり描いてあるけど余白がある」というかつての柿右衛門様式磁器に倣って「絵の量を減らさないで空間を出す」という昔ながらの『余白の美』を追求しているとのことである。このことを踏まえて表3と表4に示した団栗文と桜文の作品一覧をみると、近年になるに従って描かれる文様の密度が増しているという傾向を知ることができる。このことについては、今後も調査を継続しながら「柿右衛門らしさ」についての分析を行っていきたい。

7. おわりに

今回は、十五代の個展における団栗文の作品解説についてテキストマイニングを用いた分析を行った。その結果、2017年1月以降団栗文の線描きの色が黒から赤に変化していることが明らかになり、団栗文と同様の傾向がみられる松文と桜文の分析を通じて近年にかけて十五代の『赤』に対する意識が徐々に強くなっているということが明らかになった。つまり、一つのキーワードを詳しくみていくだけでも、他のモチーフやカテゴリに共通点を見出せる可能性があるということであり、今後収集したデータを一つ一つ分析していくことの重要度は高い

と考えられる。しかしながら、テキストマイニングを用いた分析はソフト上で機械的に行われているだけであり、抽出された言葉の意味やニュアンスなど結果の判断は分析者に委ねられている。つまり、抽出された語彙と共起ネットワークによって視覚化された情報だけでは、語彙の出現頻度と結びつき以上のことを理解することはできないため、実際に話を聞き内容を十分に理解した上で分析を行う必要がある。また、現状では作品解説のテキスト分析によって得られたキーワードと、その時々のお手紙作品をただ単に見比べている状態であるため、例えば作品から解説の中で明確に語られなかったことや、十五代の想いといったものを読み取れるような特徴の抽出方法や、作品を客観的に評価する方法について検討していく必要がある。

注

- 1) KH coder とは、テキスト型(文章型) データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア。アンケートの自由記述・インタビュー記録・新聞記事など、さまざまな社会調査データを分析するために制作された。「計量テキスト分析」または「テキストマイニング」と呼ばれる方法に対応している。
- 2) 形態素解析ツールには、奈良先端科学技術大学院大学松本研究室で開発された ChaSen (茶筌) を使用した。
- 3) 参考文献 [6] の p.104 より転載
- 4) 参考文献 [7] の p.11 より転載
- 5) 参考文献 [8] の p.49 より転載
- 6) 参考文献 [9] の p.25 より転載
- 7) 参考文献 [10] の p.51 より転載
- 8) 参考文献 [12] の p.33 より転載
- 9) 参考文献 [13] の p.15 より転載
- 10) 参考文献 [14] の p.67 より転載
- 11) 参考文献 [15] の p.35 より転載
- 12) 参考文献 [8] の p.31 より転載

参考文献

- [1] 樋口耕一 (2018) 『社会調査のための計量テキスト分析』 ナカニシヤ出版.
- [2] 木紀久子・河瀬彰宏・横地早和子・岡田猛 (2015) 「現代美術家の作品コンセプト生成過程の解明— インタビューデータの計量的分析に基づいたケーススタディー」『認知科学』 22 巻 2 号, 日本認知科学学会, p. 235-253.
- [3] 町田佳世子 (2019) 「質的研究におけるテキストマイニング活用の利点と留意点: 活用研究の検討と頻出単語の特徴をもとに」『札幌市立大学研究論文集』第 13 巻第 1 号, 札幌市立大学, p.47-53.
- [4] 那須川哲哉 (2006) 『テキストマイニングを使う技術 / 作る技術—基礎技術と適用事例から導く本質と活用法』東京電機大学出版局.
- [5] 濱川和洋 (2018) 「酒井田柿右衛門の作家活動に関する情報収集について」『伝統みらい研究センター論集』第 1 号, 九州産業大学伝統みらい研究センター, p.31-40.
- [6] (2015) 「有田焼創業 400 年記念 十三代今右衛門×十四代柿右衛門展」(展覧会図録), 広島三越.
- [7] (2017) 「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 福屋八丁堀本店.
- [8] (2017) 「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 藤崎.
- [9] (2017) 「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 遠鉄百貨店.
- [10] (2018) 「十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 近鉄百貨店.
- [11] (2018) 「十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 福岡大丸天神店.
- [12] (2018) 「高島屋美術部創設 110 年記念 <襲名記念> 十五代酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 日本橋タカシマヤ.
- [13] (2018) 「十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), そごう神戸店.
- [14] (2018) 「創業 110 周年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 京成百貨店.
- [15] (2018) 「高島屋京都店美術部創設 110 年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 高島屋京都店.
- [16] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 岡島百貨店.
- [17] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 高島屋岡山店.
- [18] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), そごう千葉店.
- [19] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 天満屋岡山店.
- [20] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 大分トキハ店.
- [21] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 八木橋百貨店.
- [22] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 浜屋百貨店.
- [23] (2020) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 西武福井店.